

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.7

TEL:018-860-3410
FAX:018-860-3834

出穂期はやや早まる見込み。ほ場の出穂状況を確認！

斑点米カメムシ類の発生は多い、防除の実施を！

1 気象経過と生育状況

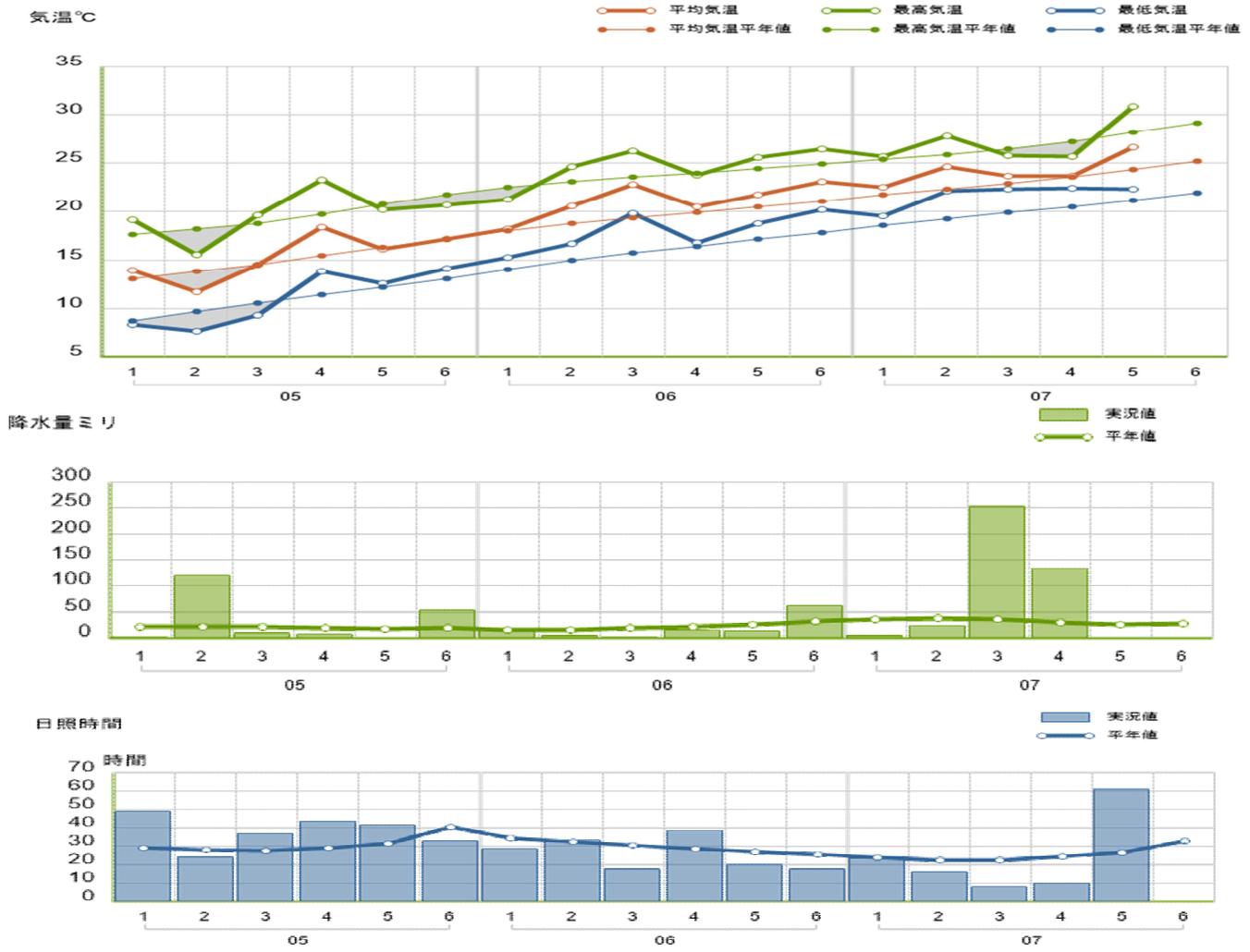


図 半旬毎の気象経過(4月1日～7月25日)(アメダス秋田、気象庁HPより作成)

〈概況〉

7月の気温は平年並～高く、降水量は7月14日から
の大雨によりかなり多くなりました。日照時間は7月3、4
半旬はかなり少ない一方、7月5半旬はかなり多くなりました。

7月25日の定点調査結果(あきたこまち)は、平年と比
べて草丈は84.5cm(平年比108%)と長く、茎数は459
本/m²(同比102%)とやや多く、葉数は12.8葉(同差+0.3
葉)とやや多く、葉色は40.0(同比105%)と濃い結果にな
りました。

表 水稻定点調査結果(7月25日実施)

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	84.5cm	108%	99%
茎数	459本/m ²	102%	114%
葉数	12.8葉	+0.3葉	-0.1葉
葉色 (SPAD)	40.0	105%	101%

※管内定点ほ場9地点の平均値(あきたこまち)

2 出穂期を正確に把握しましょう

本年の出穂期は平年と比べやや早いと見込まれますが、移植日や生育状況によりほ場ごとに前後しますので、斑点米カメムシ類の適期防除のためにも、ほ場をよく確認して正確な出穂期(ほ場全体の40~50%が出穂した日)を把握しましょう。

3 今後の水管理

- ・ 仙台管区気象台から発表された1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。高温条件下では、白未熟粒の発生が多くなることから、次の水管理を徹底しましょう。
- ・ 出穂の時期は水を多く必要とするため、出穂後10日間は湛水状態を保ちます。その後は間断かん水を基本としますが、気温が30℃以上になる場合は、かけ流しや水の入れ替えにより根の活力維持に努めます。
- ・ フェーン現象等で乾燥した強い風が吹く日は湛水状態を保ち、稲体の水分消費を軽減します。

4 病害虫防除対策を徹底しましょう ※()は病害虫発生予察情報より

① いもち病(穂いもち)(発生量:やや多い)

- ・ 7月26日に秋田県病害虫防除所から葉いもち及び穂いもちに関する注意報が発表されました。水田内に入って葉いもちの発生状況をよく確認し、適切に防除しましょう。
- ・ 穂いもちが発病してからの防除では手遅れになるので、次の防除対策を適期に行います。
 - ① 葉いもちが発病が確認されるほ場では、直ちにコラトップ剤(コラトップ1キロ粒剤12、コラトップ豆つぶ、コラトップ粒剤5)、ゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤と穂揃期にトライフロアブルまたはラブサイド剤の茎葉散布を行います。
 - ② 葉いもちが多発しているほ場では、上記に加え必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。
- ・ 本年は出穂期が平年より早まるほ場が多くなると見込まれるため、防除時期を逸しないように注意します。
- ・ 本田での総使用回数は、テブフロキン剤(トライ剤)は2回以内、フサライド剤(ラブサイド剤、ブラシン剤等)は3回以内、トリシクラゾール剤(ビーム剤、ノンブラス剤等)は3回以内となっているため注意しましょう。

② 斑点米カメムシ類(発生量:多い)

- ・ 7月28日に秋田県病害虫防除所から斑点米カメムシ類に関する防除対策情報が発表されました。
- ・ 出穂期(ほ場全体の40~50%が出穂した日)の把握に努め、出穂期10日後頃にアルバリン剤またはスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布します。特に、本年は出穂期が早まると予想されるため、散布時期に注意します。
- ・ 1回目防除の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去します。
- ・ 水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃の薬剤防除に加えて同24日後頃にもエクシード剤またはキラップ剤を茎葉散布します。

表 斑点米カメムシ類防除のための雑草処理体系

	6月		7月			8月			9月		
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
本田防除					1回目防除 ←→ 出穂期10日後頃		2回目防除* ←→ 出穂期24日後頃				
農道・畦畔	←→				←→ 草刈り			←→			
法面・休耕田	←→ 草刈りの徹底			草刈り禁止					←→ 草刈りの徹底		

出穂15～10日前までに数回行う。水田内のイネ科、カヤツリグサ科雑草の穂はアカスジカスミカメの発生を助長するため除草対策を徹底する。

1回目の茎葉散布剤の散布7日後までに草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。

稲の収穫2週間前以降から草刈りを実施する。

※ 出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場やイネ科雑草が主体の牧草地・休耕田等に隣接するほ場、発生予察情報に基づき多発が予想される場合は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回防除を必ず実施する。

- ※ 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努めましょう。
- ※ 巣箱の設置場所が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯(午前8時～正午)を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布しましょう。

③ 紋枯病

- ・ 穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、バシタック剤、バリダシン剤、モンカット剤、モンセレン剤のいずれかを株元に到達するように丁寧に散布します。出穂前の防除が効果的ですが、多発が予想される場合は出穂以降にも散布します。

5 熱中症対策

過去10年間の全国における農作業中の熱中症による死亡事故は、その8割が7～8月に集中しています。また、7月21日に仙台管区气象台が発表した東北地方の1か月予報では、向こう1か月の平均気温は高い見込みと予報されており、特に注意が必要です。

このため、次の事項等を参考にして、熱中症対策を徹底してください。

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう
 - ・ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう。
- ② 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう
- ③ 熱中症予防グッズを活用しましょう
 - ・ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなど。
- ④ 単独作業を避けましょう
 - ・ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう。

◇次号は8月下旬の予定です。